

あじさい



第 109 号

2021 年 6 月
日本野鳥の会三重 <http://miebird.org/>

三番瀬・干潟は地球の宝

日本野鳥の会東京・千葉野鳥の会 田久保 晴孝



東京湾越しの富士山（手前はミヤコドリの群れ）

三番瀬の概要

干潟では、ハマシギやミヤコドリなどのたくさん
の水鳥が盛んにエサをとっています。
沖には黒い帯となって休むスズガモの群がいま
す。日本有数の水鳥の生息地が三番瀬です。ノリ
の作業をする船、アサリやホンビノスガイを獲
る漁船、市川航路を進む大型の貨物船。三番瀬は漁
業とともに物流も支えています。良く晴れた日
には、西に白い雪を被った富士山が見えます。関東
富士見 100 選の 1 つとなっています。

三番瀬はどこにあるの

東京湾の最奥部・千葉県市川市と船橋市の南に
ある海域（干潟・浅海域は 1800ha）が三番瀬（さ
んばんぜ）です。古地図には海に地番があり、そ
こに字西浦、字高瀬、字三番瀬などの地番があ
ります。三番瀬の中心が字三番瀬です。なお、字
西浦、字高瀬は埋め立てられて地名（西浦、高瀬）
になっています。

目次

三番瀬・干潟は地球の宝	2
表紙の言葉	2
シロチドリを守ってください	5
海蔵川の自然保護活動	6
フクロウに巣箱を	7
地元で飛来した珍鳥あれこれ	
～メジロガモ・ソリハシセイタカシギ・ナベヅル～	8
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化	
一連載第 24 回 ダイゼンとムナグロ	10
ほのぼの鳥さん Watching	16
オシドリの交尾	18
理事会報告	19
事務局だより	19
野鳥記録	20
探鳥会予告（201 年 7 月～9 月）	24
探鳥会報告（2021 年 1 月～4 月）	25
編集後記	28

表紙の言葉

サンコウチョウ

四日市市 三曾田 明

この絵の素にした写真を撮ったのは 2014
年の夏、県民の森の奥深いところ。ある程度
身近な鳥の写真を撮ってしまっていたので、
あまり行かないところへと頑張って奥深くま
で行って見たのでした。そこで聞きなれない
「ギャー」と大音量の鳴き声。その正体をなんと
か探り当てたら、それがこのサンコウチョウ。
そのとき「えっ、日本にこんな南国にいるよ
うな鳥がいるの!？」と思いました。なんとか
写真に撮りましたが、それは木にとまっている
もの。でも脳裏にはヒラヒラと飛ぶこの鳥の姿
が焼き付いていたので、そのイメージで描いて
みました。

三番瀬の鳥

三番瀬では、スズガモ 10 万羽（日本一）、ハマシギ 3,000 羽（日本有数）、ミヤコドリ 500 羽（日本一）など約 200 種の野鳥が確認されています。

三番瀬は 2017 年シギチドリ類調査（春期）で全国の 3 番目（3,196 羽）でした。（環境省）

環境省は、三番瀬を重要湿地 500 のの一つに入れ、さらにラムサール条約湿地登録を目指す重要 17 湿地に指定しています。

埋め立てと三番瀬

ふなばし三番瀬海浜公園の浜に立つと、東には習志野市の埋立地の巨大な倉庫、西には浦安市の埋立地の高層マンション群が見えます。そしてこの海浜公園も干潟を埋め立てて造られた埋立地です。（船橋市と市川市の干潟・浅海域の半分が埋め立てられています）

東京湾は 20%（25,000ha）が埋め立てられ、干潟の 90% が失われています。千葉県は、戦後浦安市から富津市にかけて、12,000ha も埋め立ててしまいました。市川二期・京葉港二期埋め立て計画（740ha 1993 年）は、埋め立て反対運動などで白紙撤回させました（2001 年）。この保全された海域が三番瀬（1800ha）です。



シギの群れの中のミヤコドリ



休息場所や寝場所は堤防の上

干潟は地球の宝

干潟とそれに続く浅海域は地球上では極小さい面積ですが、熱帯雨林と同等に生物が豊かで、生物多様性に富むところです。干潟の砂と砂場の砂は、砂粒そのものは同じです。干潟の砂の周りには水と空気と栄養塩や有機物があり、たくさんの細菌や微生物が生息しています。砂場の砂には微生物がほとんどいません。

干潟に光が当たるとケイソウなどソウ類が大増殖し、微生物やソウ類、海水中の植物・動物プランクトン、有機物などをエサにしてゴカイ類やカニ類、貝類などの底生動物や魚類が増えます。たくさんの水鳥がこれらのエサを求めて飛来する。三番瀬では、今もノリ、貝、魚の漁業が盛んに行われています。

三番瀬をラムサール条約湿地に登録するように運動中です。

三番瀬の冬 2020 年 12 月～2021 年 2 月

冬は秋の渡り（キアシシギなどの旅鳥が去って、冬鳥が飛来）がすぎ、冬鳥と留鳥で安定的に生息する季節です。冬鳥はスズガモ、ハマシギ、ミヤコドリ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオバン、ハジロカイツブリなど、留鳥はカワウなどです。

今年の冬（2020 年 12 月～2021 年 2 月）に、15 回の水鳥調査で 60 種の野鳥を確認しました。ふなばし三番瀬海浜公園から望遠鏡で確認できる範囲には、スズガモが公園前面の海域に最大数 10,000 羽。カモ類は 10 種、シギ・チドリ類は 9 種、カモメ類は 8 種、そしてスズメ目は 21 種でした。個体数では、多い順にスズガモ、ユリカモメ、カワウ（3,000 羽）、セグロカモメ、ハマシギといったところです。

カモ類の状況

(種名：最高羽数・最高羽数の月日の順です)

①スズガモ	： 30,000羽	1/ 1	②オナガガモ	： 250羽	1/31
③ヒドリガモ	： 110羽	12/ 4	④ホシハジロ	： 35羽	1/10
⑤ウミアイサ	： 26羽	1/11	⑥ホオジロガモ	： 14羽	1/ 1
⑦オカヨシガモ	： 7羽	12/13	⑧コガモ	： 3羽	2/ 7
⑨ヨシガモ	： 1羽	12/ 4	⑩ビロ-ドキンクロ	： 1羽	12/ 4～2/27

シギ・チドリ類の状況

①ハマシギ	： 1,300羽	2/22	②ミヤコドリ	： 430羽	1/10
③ミユビシギ	： 155羽	2/27	④ダイゼン	： 55羽	1/ 5
⑤シロチドリ	： 51羽	12/13	⑥ダイシャクシギ	： 6羽	2/ 7
⑦ハジロコチドリ	： 1羽	2/27	⑧イソシギ	： 1羽	12/ 4他
⑨トウネン	： 1羽	2/14、2/27			

カモメ類の状況

①ユリカモメ	： 4,000羽	2/14	②セグロカモメ	： 1600羽	1/10
③ウミネコ	： 500羽	12/ 4	④カモメ	： 50羽	2/22
⑤ズグロカモメ	： 5羽	2/ 7	⑥オオセグロカモメ	： 5羽	12/13
⑦シロカモメ	： 1羽	1/10他	⑧ホイグリンカモメ	： 1羽	2/ 7

ミヤコドリの状況

昨年の夏もT6のフラッグ付きのミヤコドリ(以下T6ミヤコドリとします)を含む若鳥が40羽ほど越冬しました。9月末からは越冬群が増えて11月1日に511羽(これまでの最高羽数)を記録しました。満潮時は東側の防泥堤で集団で休息したり、干潮時に干潟に降りて採餌します(夜間も採餌)。冬季には多くの個体が江戸川放水路へ採餌にでかけます。餌はシオフキやマガキなどです。

そんな中で、T6ミヤコドリが、2020年12月25日に安濃川で確認されたという情報を、日本野鳥の会東京・研究部の川内博さんから聞きました。三重県在住の久野正博氏が、48羽の群れの中で撮影確認されたとのことでした。

実は、T6ミヤコドリは、11月5日までは三番瀬にいましたが、それ以降は確認ができていませんでした。しかし、2021年1月25日には再確認できましたので、ミヤコドリが東京湾の三番瀬と伊勢湾の安濃川を行き来していることが初めて記録されました。

ところで、このところダイシャクシギ6羽が(これまでの最高羽数)が、秋に生息していた葛西海浜公園から飛来しミヤコドリと行動を共にしています。

そんなことをまだまだお伝えしたいのですが、今回はこれまで。今後、東京湾と伊勢湾の情報交換・交流が深まればと願っています。



T6ミヤコドリ (写真中央)



はじめまして、津市白塚町の白塚海岸（昔は豊津浦とも言われましたが現在は言われなくなりました）で保護活動をしている任意のボランティア団体「白塚の浜を愛する会」代表の西口です。

白塚海岸は伊勢湾内で一番広い自然豊かな砂浜です。波打ち際から堤防までが 140m ある奥行きのある砂浜です。伊勢湾内ではほとんど無くなってしまった広い砂浜には多数の絶滅危惧種が生息しています。その中のひとつがシロチドリです。皆さんご存知のように三重県を代表する鳥です。三重県庁の正面玄関のエレベーターのドアにはシロチドリが大きく描かれています。

4 月頃からシロチドリは産卵時期に入ります。以前は、植生が何もない裸地から海浜植物群落が始まる場所に産卵をしていましたが、散歩をする人が多いためか、孵化に至らないことが多くありました。最近は海岸の奥に広がる植生がまばらな場所では毎年繁殖が成功しています。幼鳥が親鳥の付近をちょろちょろと歩く姿は、人間と同じようでかわいいものです。しかしながら、奥に広がる砂浜の中でも、以前は何度も繁殖地として利用されていた場所に海浜植物以外の高い草が繁茂しだした途端、その場所では産卵をしなくなりました。シロチドリの繁殖場所が自然の力でなくなってしまいそうです。



草原化が進む白塚海岸

砂浜は海と並行に砂浜の硬さや自然環境が変化していきます。白塚海岸では奥に広がる植生がまばらな場所は、台風等で攪乱されることもなく、砂浜も硬いので安定した場所になります。この場所が、シロチドリの繁殖地となっていますが、新設された志登茂川浄化センターの高い建物により風の吹き抜けが悪くなり、海浜植物以外の外来植物や路傍植物が繁茂し急速に草原化が進んでいます。

白塚の浜を愛するでは、シロチドリの繁殖場所である植生がまばらな場所を維持する為に、除草作業を毎月第三日曜日に行っています。私たちは「少人数で広い海岸の除草作業をこれ以上続けていくのは無理です。」「シロチドリが繁殖をしていると知ってしまった責任で保護活動を続けています。」「白塚海岸が良好な砂浜でなくなったらシロチドリは何処で繁殖を続けられるのですか？」「もうシロチドリを見なくなってしまったねでいいのですか。」「地元のおばさんが集まって作った任意のボランティア団体だけに任せているっておかしいでしょう。」と三重県知事に言いたい。

毎年、800m × 140m の海岸全部を除草して欲しいと言っているのではありません。自然環境の状況を見ながら部分的に継続して行えばいいのです。草を抜くだけです、高額な予算が必要とも思えない事業です。こんなにも簡単に思えることが三重県知事はどうしてできないのでしょうか？ 三重県を代表する鳥ですよ。

野鳥の会の皆さんもシロチドリが白塚海岸で繁殖が続けられるように、ご協力をよろしく願います。



除草作業を終えた白塚海岸